

夏の終わりに（3）

今年も7月下旬から8月にかけて全国高校総体（インターハイ）が四国で開催されました。本校も男女体操部（団体・個人）、男女ソフトテニス部（個人）、女子バスケットボール部、男子バレー部、男子水泳部、男子陸上部（個人）が県の子選を突破し、兵庫県代表として出場しました。

それぞれの競技種目で県大会を突破して全国大会に出場するだけでも大変なことですし、全国大会という張り詰めた一種独特の雰囲気の中で、自分の最大のパフォーマンスを発揮することの難しさ、言い換えると自分の持てる力を最大限に発揮することの難しさも経験したことと思います。特にその日の自分のコンディションや対戦相手によって試合中や演技中に自分自身やチームの力の出し方等を細かく修正していく力が大事になります。これは、日ごろの練習で言われたことだけをやっているだけではつかない力ですし、やらされる練習ではなく、常に自分で考えながら取り組まないと養われない力です。指導者もそのへんを意識して指導していかなくてはならないところです。

そんな中、**陸上部の川崎 俊祐 君は男子走り高跳びに出場し、2年生ながら2m12cmを跳んで全国優勝しました。**これはなかなかできることではありません。いくら実力があっても本番でその力を最大限に出すことの難しさは誰もが経験していることです。本当におめでとう！「素晴らしい」の一言につきます。

インターハイに出場することは生徒にとっても指導者にとっても、自分自身のあらゆる視野を広げる素晴らしい機会となり、人間力をバージョンアップさせる一助になると思います。インターハイで実感した自分自身やチームとしての強みや課題を、今後に活かしてほしいと思います。





